

人材採用で古里貢献

関東奄美IT懇話会

奄美市で総会

関東奄美IT懇話会（重田辰弥会長、25人）の総会が奄美市名瀬であった。同会は奄美出身のIT企業経営者らで構成し、2年ごとに奄美で総会を開いている。会員の新規獲得や事業交流に加え、奄美のIT産業の方向性や雇用面についても語り合った。

同会は2009年に「交換やビジネス交流に発足。会員相互の情報 加え、ITを活用した



地元奄美で総会を開催した関東奄美IT懇話会のメンバー。25日、奄美市名瀬

古里奄美の産業振興や雇用促進などの支援に努めることを会の目的としている。

総会では、奄美でのIT業界の方向性として、沖縄との差別化を図るため、独自の技術開発などを行う島として開発センターの誘致や、人材育成の基地として振興を図っていくことが有効との意見があった。

雇用面では、奄美か

ら積極的に人材を採用していく考えを持つ会員が多く、「神奈川県大和市のIT企業経営者らを6月に奄美に連れてくる」と他社への紹介を進めている会員の報告もあった。

成長産業のIT業界では常時人材が不足している状態。「地方出身の方が企業への定着率が高い」と話す会員もいた。

会員は奄美大島と徳之島の出身者のみ。さらに情報発信し、喜界や沖永良部、与論の各島出身者を新規会員に迎えていくことも確認した。会員らは総会に先立ち同日、奄美市役所を表敬訪問した。

2016/4/26 (木)

南海日新聞掲載分

奄美の活性化貢献へ

仕事発注仕組みづくり模索

懇会 IT 奄美 東関 総

奄美群島出身のIT企業経営者などで構成する関東奄美IT懇話会（重田辰弥会長、会員25人）は25日、奄美市名瀬の㈱フューチャ



ネットワークス奄美開発センターで総会を開いた。2015年度事業報告や16年度活動計画など2議案を承認。会では地理的要因に関係なく立地できるIT産業の利点を生かし、奄美への仕事発注の仕組みづくりなど、奄美の活性化へ貢献する姿勢を示した。

同会は起業の経緯や直面する課題、悩みなどを交歓する場として09年に設立。会員相互の企業存続発展、キャリアアップ追求の一方、奄美の振興や雇用貢献、次世代育成などで市町村と連携・協力を模索している。

設立以降、奄美での例会は3回目。同日の総会では、16年度活動計画として、18年度内の喜界島もしくは与論島の例会開催に向けた両島出身者の会員増強するほか、例会を年4回開催。また、各会員の事業所概要を同会ホームページ上に掲載することも確認した。

双方に利点がある仕組みをつくり、フリーランスが最も働きやすい島化計画に貢献できれば」と話した。

重田会長（瀬戸内町加計呂麻島出身）は奄美におけるIT産業の位置づけとして、①開発センター基地②人材育成供給③地元のIT促進課化を列挙。IT産業は地理的に遠隔地でも立地できる。人の採用は経営者最大の社会貢献」と奄美への思いを語った。

同会では奄美貢献策として、出身者が奄美に発注する「ふるさと発注」の方向性を模索する。サイバー大学IT総合学部の勝眞一郎教授は、「奄美に仕事を作り、発注・受注者

奄美の地域活性化策なども示された関東奄美IT懇話会総会

2016/4/26 (火)

奄美新聞 掲載分